

<資料提供>

平成29年6月21日(水)

生活環境部自然環境課

(内線 4260 外線 225-1475)

いしかわ動物園

(外線 0761-51-8500)

いしかわ動物園におけるライチョウの受精卵の受け入れについて

いしかわ動物園が、全国で4施設目となるライチョウの飼育施設として選定され、明日22日に受精卵を受け入れて、今後はふ化・飼育を実施していくことが決定されました。なお、受精卵の段階で受け入れるのは、ヒナなどの生体よりも受精卵の状態での移動の方が安全に運ぶことができるという国の判断によるものです。

※受精卵の受け入れについては、別途資料提供いたしますので、当日は、いしかわ動物園での取材・撮影はできません。

※ライチョウ：国の特別天然記念物、国内希少野生動植物種

1 受け入れの概要

(1) 受け入れ日 平成29年6月22日

(2) 受け入れ数 ライチョウの受精卵 2卵

(3) 移動元 恩賜上野動物園

(4) 移送方法 恩賜上野動物園から富山市ファミリーパークに移送された2卵を移送用の携帯ふ卵器に收容し、いしかわ動物園まで車で移送

2 いしかわ動物園選定の理由

いしかわ動物園は、白山で約70年ぶりにライチョウが確認されたことによる気運の高まりを受け、ライチョウの種の保存に貢献するため、国の計画策定に先んじて、平成22年度から近縁亜種のスバルバルライチョウによる飼育・繁殖技術の習得に取り組むとともに、平成23年度には、ライチョウ飼育施設「ライチョウの峰」を整備してきたところであり、ライチョウの保護増殖に積極的に貢献する施設としての実績が高く評価され、今回、全国で4施設目の飼育施設に選定されました。

3 今後の予定

今後は、すでに飼育施設として取り組みを進めている恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、大町山岳博物館に、いしかわ動物園を加えた4施設により、ライチョウの飼育・繁殖を実施します。

国の計画では、まずは、飼育・繁殖技術の確立が優先されているため、いしかわ動物園でも、当面は、ライチョウを直接お見せすることはできませんが、ふ化などの節目には資料提供いたします。

4 国の取り組みの概要

(1) ライチョウの種の保存の取り組み

環境省が平成24年度に策定した「ライチョウ保護増殖事業計画」に基づいて、環境省と公益社団法人日本動物園水族館協会（以下、「日動水」）が連携した取り組みが開始され、日動水が平成25年度に「ライチョウ域外保全プロジェクトチーム（以下、「PT」）」を設置。

※いしかわ動物園も当初からPTに参加し、ライチョウの種の保存の取り組みに貢献してきました。

(2) ライチョウの飼育・繁殖の取り組み

ライチョウの飼育・繁殖の取り組みを開始することを目的に、環境省事業として、平成27・28年度の2カ年にわたり、乗鞍岳において野生下の22卵の採卵を行い、平成28年度末現在で、恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、大町山岳博物館の3施設で計14羽が飼育されています。

(3) 人工繁殖の開始

平成29年度から上記3施設での人工繁殖を開始しましたが、産卵が順調に進んでいることから、このたび、PTに所属する10施設のうち、いしかわ動物園が「ライチョウの飼育に適切な施設」として新たに選定され、今回の受精卵の受け入れが決定しました。

<参考>いしかわ動物園でのライチョウの種の保存への取組

- ・ H21年6月 白山で約70年ぶりにライチョウ（メス）を確認
- ・ H21年11月 第10回ライチョウ会議（東京）で、近縁亜種（スバルバルライチョウ）を使って飼育繁殖技術の確立に努めることが宣言されたことを契機に上野動物園から近縁亜種共同繁殖の要請
- ・ H22年9月 ライチョウ飼育展示施設の着工
- ・ H22年11月 上野動物園からスバルバルライチョウのオス2羽借受 飼育開始
- ・ H22年11月 石川県で第11回ライチョウ会議開催
- ・ H23年4月 ライチョウ飼育展示施設「ライチョウの峰」のオープン 一般公開開始
- ・ H24年6月 国内3園目となるスバルバルライチョウのヒナ誕生
- ・ H25年7月 国内2園目となるスバルバルライチョウの自然繁殖に成功
- ・ H29年6月 スバルバルライチョウ16羽（オス9羽、メス7羽）を飼育中